

## ＜第10回 学生と教員との対話集会＞

平成21年度の対話集会は、12月10日(木)、午後4時半より、五十嵐キャンパスの総合教育研究棟、B251講義室において行われました。以下は、約2時間に及んだ対話の記録です。なるべく、生の声をお伝えするため口語体のままにしてありますが、一部、分かりやすくするために手をいれてあります。原則として、教職員については、名字を入れ、学生の方は匿名になっています。

### 【津田】

それでは定刻になりましたので、学生と教員との対話集会を始めたいと思います。皆さんお忙しい中、お集まり頂きましてありがとうございます。それではまず開会の挨拶として全学教育機構長の生田先生にご挨拶をお願いします。

### 【生田】

皆さん、こんにちは。学生と教員との対話集会、年に1回ある大変貴重な機会に、そういう意味では皆さんから率直に、私達新潟大学に対しての色々な声を聞かせて頂いて、各学部の先生方もみんないらっしゃいますので、それぞれお答になられるような気がしますし、そのようなことでさらに良い新潟大学にしていきたいという思いがあります。積極的にご発言を頂きたいし建設的なご意見を頂きたい。そういうふうに思います。ですから自由に思い切って常日頃思っていることを私達に教えてください。宜しくお願いします。

### 【津田】

それでは私、司会を務めさせていただきます大教センターの津田と申します。宜しくお願いします。進め方なのですが、お手元のほうに事前に学生さんの皆さんから頂いた質問がありましてそれを配布してあると思います。一応項目が分類してありますので、その分類ごとにまず質問全体についての解答という形で大教センター長の齋藤先生の方からご説明をして頂きまして、その後で皆さんフロアの方からご自由に質問をして頂くという形で進めさせていただきます。まず大学全体の話というのがありますが、これについて齋藤先生をお願いします。

### 【齋藤】

こんにちは。齋藤と申します。宜しくお願いします。まず最初に全体に関わる考え方というか今日のコンセプトを黒板に書きたいと思いますので宜しくお願いします。それは、物事ってのは、例えばこういう状態があるとしめます。それで、化学変化とか、何かを二倍にしたらこちらも即二倍になる、人間の世の中ってこう

なってないんですね、まず。例えば共産主義にしたら皆人間が変わるかって言ったらそうではない。全然ないわけで。人間の世の中ってのはちょっとずつ変わって、それでこれもなんか変わって行って、それでこっちが変わるからまたこっちも変わってという、そういう世の中です。何が言いたいかというと、全体に関して二点こういうことが起こっているの、まずそういうお話をしたいと思います。

一つ目は、例えば「連絡をメールで送って欲しいとか」、なんと云いますかネットワーク化と書いておきますが、紙でやるかネットワークでやるかの問題で色々ご要望とかあって、進んでないとか変えてくださいとか色々あるんですけど、これがまだ途中であるから、お互いきしみながら生みの苦しみという状態だと思ってるんですよ。

それからもうひとつはですね、最近の大学教育の傾向として研究から教育へという流れがあると思うんですけど、これも一朝一夕には無理で、大学は研究でなく教育だ、と言ってすぐ先生たちが変わる、あるいは制度が変わるかって言うところではないですね、残念ながら。それに抵抗している方ももちろんいますし。ですからこの二点において今、色々きしみが生じていると思うところをまず全般的な話としておさえてください。

それで大学全体の話で幾つかお話をしたいと思うんですが、まず教員からみた「できる学生」、「普通の学生」、「だめな学生」うんぬんという一番目の質問ですが、まず私のまったく個人的な回答をします。私はいけない行為とすばらしい行為はあると思いますが、それで出来る学生とだめな学生がいるとは思っていません。それから成績が高校までは自分の学力が分かるというような話がありましたが、大学というところはそうやって一元的に直線になって自分は何処まで能力が分かるころではないと思っています。色々な能力があって二次元といえいいのか、三次元といえるのかもしれないけど、あちこちに散らばって色々な人がいるという所だと思っています。じゃあ、そうすると何を目標に勉強すればいいのか分からなくなるというのがあります。それで仮にということですけど、学部によって身につける能力は違いますよね。人文学部と理学部、例えば数学の力で身につけるべき能力は当然違うと思う。なので現在、新潟大学では主専攻制度というのを作ってそれぞれ身に付ける能力があるとか、態度まで含めて明示していると思います。それがそれぞれの学部のおそらく目標にすべきものだと思っています。ですから先ほど私のまったく個人的な話をしましたが、そういう人間観だと思うんですけど、それではみんな彷徨ってしまう、だからそれぞれ主専攻という

ものを設けて目標を定めていると考えて頂ければいいと思います。

そしてその目安になるのが次に書いてある GPA 制度ではないかと思っています。もちろん色んな形で学生から教員に対してぶつけるだろうし、教員から学生に対してそれは良い悪いといった対話的な形で評価をすると思うんですが、そのうちのひとつの一個の目安として GPA 制度があるのではないかと考えています。

続いて、このあと二つに関しては黒板に書いたネットワーク化のほうで、徐々に進んでいくんだよという話になると思うんですが、「重要事項は掲示板を使わずに学務のメールなどで統一することができないか」ということが書いてあります。もしかしたらもうメールでしかやらないっていったら、バーンと変わるかもしれないですけど、現状は私の場合だと、「メール読んでませんでした」とか、色々なことが起こっています。それはそういうふうにしなからだとおっしゃるかもしれませんが、ちょっと怖いところがあるので徐々にメールのほうに傾斜している、ネットワーク上に情報が行くようになっていくということだと思っています。

その次の「飛び入学制度」のことにに関してはもしかしたら理学部の方のご質問なので、理学部の先生にお答え頂くのがいいかもしれませんが、飛び入学制度とあともうひとつ早期修了という制度が両方あって、飛び入学のほうは確かに大学院に入ってしまうと学士の認定が受けられないと思うんですが、早期修了のほうで、その後ろのほうに書いてある3年間在学してうんぬんのことを指していると思います。そういうやり方で学士もちゃんと取って3年で出るというやり方もあるんですけど、もう少し詳しくお答えるのがよければ直接質問頂いて、さらに理学部がどうなっているかをお答え頂ければいいのでしょうか。

ところで最後の二つに関しては法学部の先生から直接お答したいと聞いているんですが、よろしいでしょうか。今でよろしいですか。

#### 【下井】

皆さんこんにちは。法学部の下井です。2ページの2番、学務情報システムの上の二つについて法学部の学生さんからの質問ですので私の方からお答えいたします。まず「教授（新任）が決まるまでの一連の流れについて教えてください。」これについては大学の組織についてのかなり細かい説明をしないと正確な説明が出来ないのでごく大雑把に申し上げます。まず今いる先生が辞められるという話が、移動先の大学、まあ、定年退職の場合は別ですが、他の大学に移られる場合はその正式な依頼があります。それを受けて学内の手続き、新しい人を取るための手続きに1ヶ月かかります。それから法学部の場合は一般公募で人を公募しますから、だいたい公募期間が1ヶ月かかります。それ

から出されてきた人たちについて業績審査、あるいは教育能力の審査などをするのに半月から1ヶ月かかります。それから学内の手続きに1ヶ月かかります。というわけで大体4ヶ月から5ヶ月時間がかかるということをご了承ください。個人的には色々思うところがありますが、ここでは言いません。

次に「講義の履修可能年次を決めているのは誰なのか。」これは法学部の場合は学務委員会です。各科目の教育効果等々、あるいは到達基準、到達目標を考えて私が責任者を務めている学務委員会が決めています。以上です。

#### 【齋藤】

ありがとうございました。今、下井先生から法学部のお話をして頂きましたが、他の学部がものすごく違うかということ、それは多分そんなには違わないと思います。

#### 【津田】

大体事前に質問して頂いた内容についてお答して頂きましたが、その質問された方、あるいはそれ以外で何か大学全体の話で質問ありましたらぜひ活発に発言して頂きたいと思いますがいかがでしょうか。はい。

#### 【学生】

早期修了制度というのがよく分からなかったんですけど。

#### 【関田】（教務課長）

早期修了制度というのがございます。それは3年までいまして所定の単位を取りまして、成績優秀であってそして本人が希望する場合は3年で卒業できます。ただこの制度は学部ごとに取り入れているかどうかというのがありまして、多分理学部はまだとり入れてないんじゃないかと思っています。これはちゃんとした学内で規定を作りまして、こういう単位を取って何単位までとって、成績がどうか、そして本人が希望しているのを確認してどうかというのがきちんと決められてそれにのっとって3年で卒業、この場合は卒業になりますので学位も出ます。ただこれを今やっているのは法学部と工学部がやっておられたのではないかと。今その早期卒業が出来るのはこの二学部だけです。これはちゃんとした制度設計をしてないと学生にも不利益が起きますので、ちゃんと学部のほうで検討されてつくられています。

#### 【津田】

今の答でよろしかったですか。

#### 【学生】

はい。

【津田】

よろしいですかね。じゃあ、他に何か。よろしいでしょうか。だから飛び級制度についてはちょっと皆さん誤解があったようですね。

【関田】

飛び級もあるんです。

【津田】

2制度があるってことです。よろしいでしょうか。よろしいですか。はいでは次の学務情報システムについて齋藤先生お願いします。

【齋藤】

全体について、ネットワーク化という言葉を出してしまいましたが、徐々に変更していったとしても先生のほうもなかなかついていけないし、逆に学生の方もやはり知らないってことが起こっています。ただ最近ではレポートもそれができるんじゃないか、あるいは授業の連絡を積極的に伝えましょうということを周知しています。あと技術的なことに関しては、例えば「卒業要件で何が足りないかを学務情報システムで分かるようにしてほしい」とか、「メールを振り分けるようにしてほしい」だとか、あと「携帯にメールが届かないのはなぜか」とか、「なんとかしてほしい」とか。あと「不可になった場合の順位が見られないのはなぜか」というのは技術的な問題なのでこれはなんですか、思想というのも変ですけど設計の問題とちょっと違うところがあって、私にお答えできないところもあるんですが、五島先生いかがですか。

【五島】

はい。学務情報を担当しています五島といいます。ご意見ありがとございます。今お話があったように例えばこの5点でいきますと、「卒業要件を満たしているか、何が足りないか教えて欲しい」、これに関しては学部によってその卒業とか進級に必要な要件、そういったものがそれぞれ違う。微妙に複雑になっているところがあって、学務システム全体としてこういうものという共通のフォーマットで設定することが難しい部分がある。これがまず1点、ご理解頂きたいんですね。それは無理矢理出してなまじ誤解されたり、誤解された情報が出てしまうというほうがはるかに問題です。ここは危険性を避けるというのが1点。

逆に言えばシステムのほうでは所属されている学科等での卒業要件というものをまず確認できるわけでして、それとご自身で今取っている成績、これも一覧でそれぞれ出しております。ですのでちょっとお手数ではありますがそれを色々結合して確認して頂ければというふうに思うところではあります。なので2点目についてはすぐにできるかということ、今日すぐには出来

ないところではあります。

それから3点目のメールの転送機能、それと最後の不可になった場合の、これも今すぐということにはならないというお答になってしまいます。すぐという話ではない、という問題です。こういったご意見は何もこの集会に限らず日々ご意見あれば教えて頂きたいと思ってるんですね。それはメールでも受け付けるようにしているはずですし、学務係さんに言っても構わない。窓口が用意してありますのでこういったご意見がすぐに出来るという話では必ずしもないんだけど、ぜひご意見頂きたい。そういう声が、さっきすぐにはいかなような話もありましたが、ある程度時期が来たら要望がたまってくるというときにふとそういうものが実現する、よくそういうことがありますので、ぜひご意見はお寄せ頂きたいと思っています。

実はここには書いていませんけど、アンケートを学務情報システムで行っています。そこに必ずご意見も書いてもらえるようになっているので、必ずしもそのアンケートに関係ないものであっても、もしどうしても書きたいということがあれば書いてくださっても構いません。そういうものをわれわれも見ていますのでそれを生かして今後の改善に繋げていけたらと考えておりますので宜しくをお願いしたいと思います。

それからあと5点目に関しては、メールを転送するのがうまくいかないという話ですが、これは携帯のほうの設定の問題もあるので、色々知らない間に設定されて止まったり、色々ありますので。そのへんもわれわれも把握しているので、今のところに限ってですけど学務情報の連絡ですね、注意事項まとめたものを掲示したりしていますのでそれを見て頂いて、どうしても分からないということであれば、それこそ先ほど言った問い合わせだとか、学務係さんに連絡するとか、そういう形で具体的にしていければ対応できると思いますのでぜひ宜しくお願いしたいと思います。

【津田】

今の答でよろしかったでしょうか。これに関してあるいは新たに学務情報システムという点についてご意見ありましたら宜しくお願いします。よろしいですか。学務情報システムの問題点について。いいですか。それでは次にうつりましょう。成績評価について。先生お願いします。

【齋藤】

これも（黒板に書いた）汚らしい図が関係してくるんですけども、現在、先生方に教育に対してもっと時間なり力を傾けてくださいということは行っています。ただなかなかそれが形として現れていないので、学生の皆さんが色々言って頂ければまた変わってくるのかなと思います。まず評価方法の明確化ですが、最初の方の、ちょっと意味が分からないところがあったんで

すが、こう想像してお答しますが、法学部の学生さんが経済学部、その他の学部に出て経済の学生と一緒に評価されてしまう。法学部なんだから知らなくても当たり前のこともあるんじゃないかと。もうちょっと甘くつけてくれと読んだんですけど、真意は分かりません。そうだと、先ず他の学部に行けばGコードの科目、なんと言えいいかな、教養に資する科目の単位になると思います。そしてそういう形でしか取れないとしたら大変だと思うんですが、そういう他の学部に行かれて勉強するっていうのはまた意味のあることだと思うし勇気に拍手を送りたい。逆に言うと私自身もそれぞれの学生に対して、元の学部が何だからどう評価しようというのは一切なくて、やっぱりみんな一律につけてしまいます。それは自分なりに授業を出していて到達目標を書いてあります。あくまでもその到達目標のどこまでいってるかしか、評価の基準がないので何学部だからもっといいとか、そういうことはやっていません。それはもうシラバスに書いてあると思いますので。ですから、そういうふうにされるのが嫌だということであれば、やはりGコードの科目、教養に資する科目として出ているもので経済を勉強して頂くしかないのかなと思っているんですが。

#### 【下井】

今の齋藤先生のご説明、普通はそうように解釈されると思うんですが、私が日頃法学部の学生さんと話していると、多分意味が違う。これ書いた人、補足質問しますか？ もしするなら私がここでご回答しますが。それとも今の齋藤先生のお答でよろしいですか？ 良いなら私は答えませんが、よろしいですか。はい、失礼しました。

#### 【齋藤】

あとで解決して頂ければと思いますが。続いて「語学の授業の認定が他の大学に比べて甘いのではないか」というのも認定という意味が分からなかったんですが、成績の認定なのでしょうか。それでどこと比べて甘いと思われたのか分からないのですが、私も語学を教えています、他の大学がどうであるか分からないのでお答えしようがないところがありますが、これも到達目標、到達のレベルを設定したうえでそこまでいってれば合格にしています。ですからそのレベルがそもそも低かったらそれは甘いと言われても仕方ないんですが、私としてはそんな、私個人のことでいいですね、そういう形でやっていますので、それが何をもちて他の大学と比べて甘いのかを説明して頂ければありがたいということでしょうか。

それから「成績の評価方法について全学部で統一されていない。例えば最高点など」、と書いてあるんですが、最高点は100点です。それは当たり前といえば

当たり前ですが、ただ先生方が、これはこういうのが実際にありまして、あとから成績分布を見てみたら全員同じ点数だったと。それを学生から聞くことがあります。ですからこちらでは成績については秀から優、良、可、不可、それぞれどういうものをそういう点数につけるのかははっきり明示して先生方に示しています。さらにその主専攻、さっき、はじまったと話しましたが、そのなかではそれぞれ到達目標というのをしっかりあげてそこで何パーセントまで到達しているかという発想でやっていますので、そういう取り組みはしているということをお答します。ただ一朝一夕にはやはりいいかないので、先生方が色々誤解されていたり、まだ分かっていなかったりで色々な問題が生じているのは承知しています。

「中間テスト、レポート等、返却してもらえない」、「復習のために返却してほしい。」これはすばらしい意見だと思います。後ろのほうで「授業アンケートを真ん中でやってほしい」というのがあったと思うんですが、最近ではそうやって、形成評価というんでしょうか、最後で成績を評価するのではなくて、途中で評価して、さらにそのあとどうするかという教育の方法が取り入れられるようになってきています。ですからこれもそういうほうにもっていかうとしていますので、お待ち頂いて、と言ってるうちにもう卒業になってしまうかもしれませんが、そういう動きになってるとしかお答することができないのと、あと直接先生に言って頂くのも手かなと思います。

#### 【山口】

経済学部の学務委員長の山口です。経済学部の学生から質問出ているので、私のほうで答えさせて頂きたいんですが、基本的に他の学部がどうかってのは分からないんですが、少なくとも経済学部においては中間テスト、それから学生が提出したレポートそれから定期試験そのものについては、成績を証明する証拠書類として最低5年間教員が現物を保管しなければならないというルールになっています。ですのでその後学生が実際成績についてクレームがあったときにその現物を見せて、あなたの成績はこうだったということをこちらが証明するために5年保存しなければならないと。でもし学生のほうで、復習のために中間テストとかレポートとか定期試験が欲しいんだと言った場合は、先生にコピーさせてくださいということを申し出てください。それは可能だと思います。ただ現物はお渡しすることはできません。

それからちょっとついでですので、評価方法の明確化で多分さきほどの法学部の学生、経済にも関連することなんで私が感じていることとお話しさせて頂きますが、多分法学部の学生が不満に思っているのは、法学部の成績が辛いと、経済学部の授業は甘いと。そうするとGPAで見た場合に経済の授業をたくさん取っ

ている学生はGPAが高く、法学部の授業をきちっと真面目にとっている学生はGPAが低いと、それが不満だということだろうと思うんですね。これは法学部と経済だけに関わった問題ではなくて、GPA制度そのものに関わる問題だと思っています。実際経済学部でGPAを導入するときに、私、原案を作ったんですけど、そのときに併せて提案したのが、GPAっていうのは学生が習得した単位、その成績をすべて集計して平均するもので、ある意味学生の成績の重要な指標になると。そうした場合に甘い授業、要は楽な授業ばかりとってGPAが上がって、厳しい授業ばかりとっていたらGPAが下がるといったようなことは、基本的にあってはならないわけで、GPAを導入するのであれば、あわせて授業について、完全とまではいかないにしても、基本的に相対評価を導入すべきであるということを提案したんですよ。教授会ではねられました。経済学部では。おそらく他の学部でも同じような状況だと思うんですね。私個人としてはやはり科目間で成績評価が甘いか辛いとかっていうのは、あまり如実に出るような状況というのは、GPAとかCAPを導入してる状況下では望ましくないと思っています。それがおそらく学生のほうにも不満として出ているんじゃないかというのがこの(1)だと思います。以上です。

#### 【齋藤】

ありがとうございました。山口先生に発言して頂いて思い出したことがあるので付け加えるのですが、語学の授業の話だったんですが、これも甘いか辛いとかいう授業があるので、語学の先生のなかではそういうことじゃなくて外部の、例えば英語なら英語の検定とかあるわけで、それは一定の指標になると思うんですね。先生ごとの指標ではなくて、外部の到達度を測るテストなんてものを参考にすればそれぞれの授業のなかでの差がなくなって、全部同じ評価の基準になるんじゃないかという話も出ていますので、そういう意味では成績評価の明確化、それはゆっくりではありますが進んでいるというのを付け加えておきます。

それでは2ページの最後、出席についてで、「講義における遅刻者、途中退席者を減らしてほしい。」私も減らしたいです。私は去年も同じ話をした覚えがあるんですが、自分のやっている授業に遅刻してくるのがたくさんいるので何をやっているかという、まったく授業と関係ないパフォーマンスをやって、あとでアンケート用紙に今日どんなパフォーマンスをやったのでしょうかという、そういう質問を入れてるんです。それ答えられない人は来ていないんだなと思っています。ただ逆に遅刻しても聴きたいんじゃないかと思うときもあるんですよ。そうすると無下に遅刻はだめと言えないところもあるし、途中で出る方がいるんですが、体調悪いのかなと思ったり、なかなか一概に言え

ません。なのでこれはもう本当に教師と学生の人間関係なのかと思っているんですが、そこに逃げちゃいけないという話もあるかもしれませんね。制度をつくれということかもしれません。

制度に関して言うならば、どうですかね。欠席とかに関してならあるんですけど、遅刻と途中退席に関してそういう制度があるかというとないかもしいので、そういう人間的なところに頼るしかないと、私は思っています。ちょっと尻切れトンボになりましたが次のページにいて。

次は出席のことで、まず多くの教員が(成績評価について)出席及び授業レポートで50パーセント、試験で50パーセントと書いてあるんですが、実はわれわれは出席点はいれなくてくださいという指導をしています。レポートはいいんですけども、出席するのは前提であるというふうに先生方をお願いしています。ですから例えばある学部の規定には3分の2出席していなかったら試験を受けられないとまで書いてあるんです。でもなかなかそうはなっていないです。ですから体調が悪いときに出てきた学生はすばらしいと思う点もあるし、そこから風邪が広まっているというのものもあるんですが、それもケースバイケースとしかお答えしようがないので、うつしそうなほどの体調が悪いときには来ないで下さい。そこまですりたくないけど体調が悪いときなどは頑張ってる偉いなとしかここではお答えできませんが、体調が悪いときは届出を出せば、それなりの考慮はされるんじゃないでしょうか。学部によって違いますかね。ということでもたまたま尻切れトンボのようなお答になってしまってるかもしれませんが、本来は出席は出るのが当たり前ということになっています。成績と関係なくということです。

それと「集中講義について、その成績通知を少なくとも受講した年内には開示してほしい」と書いてあるんですが...

#### 【下井】

この問題は法学部について学生さんにこの不満があるということは私は十分に認識しております。これは非常勤の先生の集中講義だということだと思いますが、11月いっぱいには成績表を出すということになっているが、なぜ出ないのかは明らかでありまして、それは先生が成績をつけないから。それだけです。他大学の先生について、がらがらが毎日毎日成績をつけろつけろというわけにはいかず、もちろん督促はしておりますが、そういう事情であって、例えばうちの学務係がさぼっているというわけではありませんので、そこだけは誤解しないで頂きたいと思います。もちろんこのことがいいとは思っていません。今後もよそから来て頂いた先生方にはとにかく期限を守ってくれというふうをお願いいたします。ただそれ以上そのことを強制はできないということは法学部の学生さんで

あれば十分に理解していただけるかと思います。以上です。

【齋藤】

あと、その他になっているんですが「成績評価について感じる事です。現在成績評価は、秀・優・良・可・不可で出されていますが、先生方は学生にどの程度の成績をとってほしいと感じているのか教えてください。」答は秀に決まっているんですけども、満点を取って頂きたいと思ってやっているわけですが、取ってほしいというのは本当にそれしかお答えしようがありませんけど、現実はそのようになっていないということでしょうか。以上です。

【津田】

それでは今の関連でお答に対して質問とか、他に質問があれば、はい、お願いします。

【学生】

さきほどの成績評価についての（３）の出席について、理学部生物学科、ここのお話があったと思うんですけど、出席点は入れないで、出席が３分の２以上じゃないとテストを受けさせないという決まりがあると言っていたじゃないですか。その場合は出席をとってそれで３分の２受けているか受けていないかということを確認するということですよ。

【齋藤】

そうですね。

【学生】

はい、分かりました。そこがよく分からなかったのです。

【齋藤】

ただマイナス面ばかりの話で、申し訳ないですが、出席をとっていない先生もいると思います。それはとってください、と言うのは指導していきます。

【学生】

人文学部４年の学生です。大学４年もいると、レポートを出すときに、先生方の好みの考え方があるなって個人的に実感していて、その実際に入学したときとかに、学科ごとでもいいかもしれないんですけど、何がいいレポートと言えるのかとか、そういうのを明示したりしないんでしょうか。

【齋藤】

それはもちろん学科ごとにやっていると思うんですけど、少なくとも私の学科では２年生のときにそういう授業を出していて、どういうレポートがいいかとい

うのはご存知のようにやっていますけども、じゃあ学部全体で、大学全体でおそらく一元化はできないと思います。学部によって学問のコンセプトが違うから。じゃあ人文学部のなかでそれができるかというと、形式についてはできるでしょうけど、かなり学問体系が違うのでそれはまた難しいと思います。せいぜい出来るのはコースの中で意思統一を図ってそれが目標とすべきレポートですということではできると思うんですが、あとはもうここでいうよりかは、そのコースの中でお願いというか、主張して頂くというのが一番かなと思いますけども。

【学生】

分かりました。ありがとうございました。

【齋藤】

それでいいですか。よろしいですか。

【津田】

よろしいですか。他にありますか？ じゃあちょっと待ってくださいね。そちら。

【学生】

成績優秀者には確かお金が出るはずですよ。それで学部ごとに３人ずつだったはずなんですけど、僕が疑問に思ったのは、医学部で医学科と保健学科が分けられていたような気がするんですけど、それは例えば医学部の授業を工学部の人が受けたら分からないですし、医学部の人が工学部の授業を受けても難しいと思うじゃないですか。そしたらなんで医学部だけ、ふたつ医学部保健学科と医学科を分けてしまっているのか、それと成績優秀者がなぜ学部ごとに３人なのか。普通だったら分母数に合わせて人数を決めると思うんですけど、そこらへんはどうでしょう。

【齋藤】

まず医学部の医学科と保健学科は、あれ就学年数同じですかね？ 違いますよね。そういうこともあって分けてるんだと思います。それは学務情報システムのときでも分けてますけども、そういう問題があると思います。

あと３人はこれは多分純粋にお金がいくらあるかだと思いますが、そのときも議論がありまして、つまり、ある学部は６学科に分かれていて、ある学部は３学科に分かれている。３学科のところはちょうどその１番に出したらいいんじゃないかということでやっていたんですね。そうするとそもそも差別が起きますよね。なのでそれぞれの学部で３人というやり方でやろうと決まったという記憶があります。３という数に関しては純粋にお金を割っていくとそれになったということで記憶していますが。補足とかありますでしょうか。

【佐藤】（学務部長）

学部の方はそれでいいんですけども、医学部だけが学科になってるのは、ひとつは齋藤先生が言われたように課程が異なるというのも大きい理由ですが、ご存知のように歴史的に見ると保健学科は医療短期学部とか色んな前身を引っ張ってきていますね。いわゆる学部的なかたまりを持っていた歴史があるんです。形式的に医学科保健学科というような形に見えるかもしれないけど、内情的には学科ではありますけども、学部相当に評価できるかと。その2つの理由かと思っています。分けた理由は、先生がおっしゃったのと私が申し上げたのと両方から成っているのかなと。いいでしょうか。

【学生】

学部の人数が多いと、学部によって人数分らないんですけど、例えば人文学部が3000人だとしましょう、法学部が6000人だとしたら確率はかなり低くなるじゃないですか、法学部のほうが。そうしたらなんで分母で割らずに3人ずつということになったのか、それが疑問。

【渡邊】（学生支援課長）

充分にご納得いただける回答になるか分かりませんが、各学部の格差をどういう風に是正するのかという疑問がありましてですね、やはり学部の判断にゆだねて各学部で3名というふうなことがあります。あなたの質問の趣旨ですと、各学部による格差というのを埋める方法がないので公平を期すために各学部の裁量にゆだねて、各学部あて3名。さきほど言いましたように医学部等は科制ですので、科ごとに3名というふうになっています。

【佐藤】

一見分母の違いによって不都合のように聞こえますけど、優秀なのは何人いたかという制度ではないんですよ。要するにトップのほうの部門の者を表彰しようという制度でございまして、優秀な者について各学部が3人ずついるだろうと。まあ逆のことを言えばもっといるかもしれませんが。必ずしも分母集団が大きいからその確率が出るというものではなく、各学部の上位の人間を3人表彰したい、単純にこれだけの話です。

【学生】

工学部3年の学生です。3年の出席についてなんですけど、私の学部ですと出席3分の2以上取れない場合は試験を受けさせてもらえないというのが前提にあって講義を受けているんですけども、遅刻してくる人間がどの講義にもいまして、その遅刻してくる人も出席は取れているんですよ。たとえ10分遅れようが30分遅れようが。出席は取れていることになるんですね。

そうすると始めから出ている人間と、毎回遅刻してくる人間と、さほど差が出ないという評価をされることになってしまうんですけど、その点については先生方は何か対策というか何かやっていたらいいのでしょうか。

【齋藤】

私の場合は、私はさっきも言ったように人間関係に頼るタイプなので10分来ないと10分損しているんだよと言います。私の大事な話が聞けなかったでしょと言っていますが、それで納得しない方はもちろんいて、その10分というのをどんどん足して90分になったら1回欠席にするのかということですけど、それはやっているとそっちに時間がとられて大変なので、それでおそらく多くの先生はやっていないのかなと思います。

それからその10分間の間に大事なことを話しているわけで、それが要するにテストにも出るんで、その分試験は不利になっていると思うんですね。3分の2もしかしたら達していないかもしれないけど、その10分を足していったら。でもその分試験を受けるときはその不利さは生じているので、そうではあってもあるところでバランスがとれていると私はそう思っているんですがいかがでしょうか。

【学生】

はい、分かりました。

【津田】

いいですか。よろしいでしょうか。この理学部3年生の話にあるのは、インフルエンザで休んだ分で3分の2に達していないと試験を受ける資格を失うんじゃないかというふうに受け止められるんですけど、では理学部の濱口先生。

【濱口】

なぜ僕にまわってくるのか良く分からないんですけど。もちろんインフルエンザ等では当然色んな形での、むしろ出席されたら困るわけですから、そういう対応はして頂いたほうがいいだろうと。それでそれなりの手続きも一応は用意されています。

ただ、ついマイク握ると余計なことを言いたくなるんですけど、出席の問題というのは変な問題で、学生さんは出席をすることは義務ではないんですよ。授業に出ることは権利であって義務ではない。それで教員側はきちんと授業をやるのが教員の義務。だから学生さんは義務であるかのごとく出席をするという考え方というのは、払拭していただけたらありがたいと私は思っております。

【津田】

それではこの件につきまして他に何かありますで

しょうか。では何かまたありましたらご質問を頂くことにして、その次に教員の教授方法および態度について。ひとつしかありませんけど。宜しくお願いします。

#### 【齋藤】

まず、「大学教員が教育者ではなく研究者という感じを受けることがある」ということに関して最初にお話しましたが、最近の動きはああいう形で動いています。ただまだまだそこまではいっていない先生もいらっしゃるでしょうし、新潟大学自体がそうかもしれません。ただ間違えてもらって困るのは、「研究者ではなく教育者である」というのはまたまずいわけであり。私は実はこういう仕事や授業がたくさんあって研究時間が少なくって授業をやりながら「忘れているな」と思うことがあってだんだんだんだん授業自身も怪しくなっています、恥をさらすようですが。ですから研究もしっかりやったらうえて授業をしなくちゃいけないのであって、そこだけは誤解しないで下さいね。研究をやっていると教育者として授業をさぼっているというわけでは絶対にならないので。それを学生にちゃんと返しているかというのが問題だと思います。

そして「大学教員も教職課程のような教育学的カリキュラムが存在しているのか」、これは存在しないとまずお答するべきでしょう。私自身も授業のテクニックは予備校で勉強しました。変な言い方ですけど。生徒が減ると給与が減るという状況の中でどうやったら生徒をおもしろくさせるかというので学びました。で、なかったんですが、それでは教育に傾斜していくというのに合致しないので、たとえば新任の先生には模擬授業をやって頂いて、アドバイスをするとかあるいは先輩の先生の授業を見に行くとか、あるいはそもそも下井先生が教員の採用の話のときにおっしゃりましたが、そのとき模擬授業をやって採用しているというのもあると思います。徐々に変わってきていると、早急ではないかもしれませんが、徐々に変わってきているというふうにご理解頂きたいと思います。以上です。

#### 【津田】

教職課程のような教育学的カリキュラムというのは存在はしていませんけども、センターが行っている全学FDとかですね、そういう研修みたいなのはやっているわけですね。それはもう長い間、20世紀の後半からセンターが発足して以来ずっとやっていることでありまして、全く存在しないというものではありません。補足をさせて頂きました。教員の教授方法および態度について何かご質問ありませんでしょうか。よろしいですか。では次にカリキュラムについてということでお願いします。

#### 【齋藤】

では順番にいきますが、まず抽選に関してですが、

これは先生方にも早く抽選して結果を出してくださいということ、口をすっぱくしてメールを出しています。そうやって連絡しています。それから「授業が始まる前に可否をだしておいてほしい」という2番目なんですが、これ実はある会議で私提案したことがあります。ただ、じゃあ1回目の授業で先生の顔を見たり、雰囲気とか知らずに決められるかということも実は残っていて、行ってみたら合いそうでないとかいうこともあるんですね。ということで一応2回目が始まるあたりから登録になっているんじゃないかと理解しています。ただそのときに私が提案したときに出た理由はちょっと違ったような気がしているんですが、今はそう思っています。

次は人文の問題だと思うんですが、「紙媒体」の意味が私2つとれると思いました。1つは遅くなってから聴講カードで出す意味かなと思っていたんですが、たぶん違って、人文学部で一週間の時間割をすべて書いて出すというその紙媒体かなと思って理解しました。それが残っているのは規定に書いてあるからという、あまりにもお役所的な答が1個あるんですが、もうひとつはそれが実は結構救うこともあって、変な言い方なんですけども、紙で、目の前にぱっとあったときのほうが、これ出てないとか、科目が足りないとか、そういうのが一目瞭然だから残ってるんだと思います。人文学部は紙媒体信仰の学部です。そういうふう到手元に、アドバイザーという人の手元にその一覧があって、それで分かりやすいようにやっています。

それからここからふたつ関連すると思いますが、要するに取りたい科目が取れないという、そういう苦情がずっと続いてきています。それでひとつの対策としてはどのくらい不許可になったかというパーセンテージを代表の先生にお配りして、このところはこんなに人気があるからなんとかならないでしょうかということ、これを毎年やっています。ただなかなか改善されないのはやはりお金の問題とか人的資源の問題。毎年心理学は人気なんですが、先生が100人もいるわけではないんですね。その先生たちだけが忙しくなるというのはそもそもそこで勉強している学生にも不利益になります。なので、限度があるということで、少しずつ増えたりはしていますけども、あるいはこういう大きさの教室じゃなくて、もっと大きいところでやるとか、それが本当に改善かどうかは怪しいところもありますが、色々な方法でやってはいます。ただ皆さんのご期待に添えてないことがあるのかなと思います。

あとその次は、聴講のところで、みんなが取りたい科目が取れないからこそ、そうやってあふれているんだという前提があると思うんですが、最後のところ4ページのところ入ってくるんですが、「CAP制による単位取得制度の効果」と書いてあるんですけど、CAP制は単位取得制限のためにやっているのではなくて、最終的に聴講するものが決まったときにあまりにもた



くさんだと予習復習ができないでしょうと。その時間を確保するためにCAP制というのがあります。

最初の段階で単位取得制限ではないです。ここは誤解のないようにお願いしたいんですけども。そしてその聴講のために色んな作戦が、「重複登録」、「過剰登録」等も書いてありますが、それに関しても学生の皆さんにも呼びかけていますし、多分メールがいったいなかな、われわれのほうでは保険と言っているんですけど、落ちたときにこっちが残っていれば助かるという保険と言っていますが、それは止めようねということ言っています。あまり答になっていませんが、今のひとりごとです。もしなにかあればそれについてご質問ください。

それで授業内容、授業数ですが、これも幾つか今の絡みます。「人気のある講義は多く開講してほしい」。「座席数を増やしてほしい」。これは今言ったように色々お願いしているところです。それからパワーポイントについてはさきほど新任の先生には授業の方法についてアドバイスをしていたと言いましたが、その時にも、こういうこと（パワーポイントを使う授業でのメモを取る時間の確保）は出ていました。私もつい最近アンケートに、スクリーンをおろして（映像を）映して、（その後でスクリーンをあげて）黒板に書いてあったのをすぐ消すからメモをとる時間がないといわれました。それは毎回毎回の授業のなかで言って改善される問題もあるのかなと思っています。

次のところはさきほどの質問とかぶるかもしれませんが、「教員によるレポートの書き方の指示を統一してほしい。先生によって書き方の指示が異なるが、教員の見易さを優先にしていると思われる。」学生の学習を中心に授業を組み立ててくださいということは言っていますので、改善されていくのではないかと思います。最後に「情報機器操作入門は必要か」という質問については、この夏休みに今後の情報教育について、FDと言いますが、考える集まりをもって情報担当の先生方と、私が言い出したんですけども、相談をしました。まだ来年度には反映されていません。再来年度あたりから変わってくるのかと思っています。まさにこれに書いてあったとおりのことですけど。

#### 【津田】

はい。今のに関連して少しこういう点について聞きたいとかあるいはご質問あればお受けします。よろしいでしょうか。

実習レポートについて理学部の3年生からありますが、これ理学部の先生にお答え頂くのがいいですね。

#### 【梶田】

レポートの書き方について色んな段階を踏んで皆さんが習得されるんじゃないかと思うんですよ。1年生入ったばかりのところ、スタディースキルズという

のを各学科がそこでレポートを出すということが必修になっています。そのあと色んな授業で少しずつ、レポートの書き方というのは、その科目の狙いが何なのか、どんなことをやったのか、その結果についてのまとめたいものを書くというのはやっぱり少しずつ学んで頂くということだと思うんですが、それが足りないの、まとめたそういう授業をやったほしいということかもしれませんが。お答になってないかもしれませんが、段階的に習得して頂く技術で、それは社会に出られても当然必要な技術だと思います。

その下のIT関係のは受講者の層が色々あって、ほとんどやってなかった人ともうそんなのはもうはるかに教員より優れている人までカバーしないといけないので、一概にその全廃するのがいいかどうかちょっとこれからの検討かと思われます。

#### 【学生】

理学部3年の学生です。今この3番目の実習レポートについて質問した者なのですが、これは最初の1年生のスタディースキルズというところでも科学論文に沿って書くようにという指導があって、それに沿って書くようにという指導があるにも関わらず、そのあとに始まる1年生の実習の授業では、見るのが面倒くさいから手順や方法は書かないでくださいとか、結果と考察は一緒に項に書いてくださいとか、そういう教員同士で、各教員が持っている実習ならまだしも、1年生とか2年生の、各教員が色んな教員と一緒にもつ授業でやっているのはそれはちょっと統一してほしいなと思います。

#### 【津田】

先生宜しく願います。他にありませんでしょうか。よろしいですか。それでは先に進みまして授業評価アンケートについていきましょうか。

#### 【齋藤】

「アンケート集計後教員の方々がどのような対応を取っているのか。」教員という意味がこちらの執行部という意味であれば、満足度の数値を先生にお返しして、ある数値に達してない方にどう改善されますか、というのをやったときがあります。ただ、それでいいのだろうかという話をしていて、つまりアンケートが出てお願いしたあと、授業がどう変わっているかということまで踏み込まないと意味がないのではないかと議論を今しています。じゃあ今後どうやってやるのか、本当に今議論中ですのでお待ちください、というところでしょうか。

例えば紙媒体でやるのがいいのか、学務情報システムがいいのかという議論もしていますし幾つか案を出して今検討しているところです。

「期末に行われる授業評価アンケートはどのくらい

生徒の意見が反映されているか」という質問ですが、生徒の意見というのは、設問に生徒から見た項目を入れて欲しいということなんでしょうか。今のところは青いほうの紙だけで対応してますかね、先生。

#### 【津田】

自由記述に関してはそれぞれの先生方にお返して、各先生方に改善して頂くということで指導しています。そのなかにちょっとひどい書き方をしている学生がなかにはいるんですね。だから自由記述はしなくてもいいんじゃないかという声もなかにはあります。

#### 【齋藤】

逆に私は自由記述を楽しく読んでいるほうなので、楽しくという言い方は変ですけど、そこに学生の本音が出るなと思って読んでいるんですが、ただ「不必要な内容の意見を書く人がいると先生から聞いたことがあります」というのがあって、私も思ったのがあって、最後の授業のときに、去年も言いましたかね、「教室が寒かった」とか書かれるんですけど、その寒いときに言って頂ければ暖かくできるのにと考えたんです。不必要というか、私の場合の意味ですけども。ですからもっと一般的な言い方をすると、教師も人間だから、人間だからといっちゃいけないか。まあ、人間なんですけど、その場で言えば対応してくれる先生もいるんですけど、なぜか人間じゃないと思っているのか聞いても何にも反応がないだろうと思っているのか、アンケートだけで意見を言っているのがみられるから、その場で、「先生暑いんです」、「寒いんです」って言って頂ければ改善されることはたくさんあるんじゃないかと思っています。

それが無理なのが数字で出てくる、やっぱり授業は、例えば声が小さいというのがいっぱい出てくれば、それが必要でしょうし、板書が汚い、そういうのが出てくればそれが必要でしょうし、そういう対応が必要なものはあると、そんなところだと思っています。

あと次はあたっている指摘でしょうね。「授業中、授業後に疑問点を質問したか」という設問で、したかないかだけなんでしょうけども、「どちらともいえない」とあるという話なんですけど、人間で何か残しておくとか楽だということがあって残っているのだと思います。困ったときに○するという感じです、まあ冗談ですが、それは多分改善されると思います。「授業アンケート、一期に2回行って欲しい」というのはさっきも話しましたが、形成評価と言いますか、途中でやれば確かにその授業が改善されると思います。ただそれをお金が無いですね。2回やるお金が。第一、時間がかかります。これは各先生方でやるのがおそろくいいのかなと思いますけども。6番に関しては以上です。

#### 【津田】

今のご回答に関して質問、あるいは何かありませんでしょうか。授業評価アンケートについて。「授業アンケートを一期に2回行って欲しい」というのは農学部生産環境科学科では、そちらでは2回やってらっしゃる、学科単位でやってることですね。先生によっては個別に中間にアンケートをとって2回やっている先生もなかにはいらっしゃるの、一概に1回しかやっていないとは言えないと思います。ありませんでしょうか。はい。

#### 【下井】

授業アンケートについて、法学部の対応を一応ご紹介だけしておきます。法学部では自由筆記の結果書かれたことについてはすべてワープロ打ちして全ファイルを全教員にながしています。つまり他の先生に他の先生の授業に対するアンケート内容も全部学部内で公開、教員のなかで公開しています。これは確か以前配っていたんですが、今量が多すぎるので配りきれないかもしれませんが、ちょっとこれは学部ガイダンスで全教員に対する自由記述を配る方向で考えたいと思います。

それだけではなく且つ、著しく評価が低い先生に対しては改善するようにと命令も出したことはあります。その結果がどうだったのかはちょっとあれですけど。だからあまり活かされていないという評価があるのかなと思いますが、できるだけ法学部ではアンケート結果を色んな形で結果を出せるように努力はしております。以上です。

#### 【津田】

他の学部、例えば理学部なんかは公開をしています。冊子体で。

#### 【樫田】

教員からの改善の提案とか色んなそういう作業が続いているんですけど、まず各項目についての点数表とかグラフと、それに対する来年度に対する改善のそれを各教官に戻してそれを学部の教育改善検討委員会で検討するというそういう手続きをここ何年か続けているんですが。

#### 【津田】

はい、補足しておきますが、授業評価アンケートの結果の推移をみていますと、低評価の先生方はいつも同じ先生になっているわけではなくて変わっています。低評価の人数を見ますとかなり低くなってきています。人数が少なくなってきている状況です。こういうところからみますと、普段の授業評価アンケートによって改善されて効果をあげているというふうにセンターでは理解しているところですけど、全体的にはアンケー

トをフィードバックすることは、今齋藤先生がおっしゃったように検討している最中です。  
他に何かありませんでしょうか。それでは次に施設・設備についてお願いします。

#### 【齋藤】

私はバックにお金がありませんのでここについて責任ある回答をできないんですけど、基本的な考え方ですと、お金が無限にあれば全部できるんでしょう。ただ有限なので選んでやるしかない。それが現状になっているかと思います。私も例えばこの総合教育研究棟の入り口のところ、なんでひさしが無いんだろうと思っています。こんなに雪の降るところにどうして入り口に無いんだろうと思っています。でもきっと東京の人が設計したんじゃないかと思っています。色々不思議なことはあります。トイレの個室に入るといつの間にか電気が消えて手を回さなければつかないとか。本当に色んなことがあります。

それは事実ですけども、そうなるんじゃあどうすれば実現できるかという、やっぱりこれはみんなが困っているんだと思えば動いてくれると思います。ですからこれは本当に事態をみんなで、ここは本当に困っているんですと教えて頂くということだと思いますので、このなかで本当に大事なところがあつたらずひぜひ皆さんで集まってそうなんだということを教えて欲しいと思います。全部に関してそれにつきます。それぞれに関してお答することは出来ないのですが、例えば一番最後のところに、プラネタリウムを併設して頂きたいというのがあって、私なんかぜひ劇場作ってもらいたいと思っていますんですけど、それは多分私一人か何人かの考えなんです。それが1000人必要だと言ってそれが認められればできるかもしれないわけです。さっき言ったような考え方でやって頂ければと思います。

その他の一番上のところに関しては、それぞれの学部の事務の方をお願いしたいと思います。特に教職に関しては分かっていないことが多いんです。個別の学部が。うまく情報がいくようにしてください。私もいくようにします。教職支援センターができましたのでいくようなと思います。

「学生に質問、欲求したいこと、ものを教えてください。」私が質問したいのは、幸せな学校生活を送っていますか？「旭町周辺のアパートの斡旋をもっと行ってほしい」、これはどうでしょうかね。

#### 【泉井】（学生支援課副課長）

アパートの斡旋は実は生協さんをお願いしております。頂いた意見は生協にお伝えしております。生協のほうでも件数が少ないというのは把握していますので、いくらかは改善できるかと思っています。決してやってい

ないというわけではないです。

#### 【齋藤】

ついでに施設・設備について何かお答頂ければあれですが。

#### 【泉井】

「旭町のキャンパスに学食を」という意見があるんですが、私どももう動いています。現実はやっぱ人数と、大学だと休みが非常に長いので実際に入って頂いてペイできるかというところで非常に大きなネックがありまして、引き続き検討させてください。カードキーもあるんですけど、去年も出たんですけど、必要があれば出すのは可能ですので、ただ全員に持たせてくれというと今度落としたときの安全管理というのがありますので、必要なところは申し出て頂ければと思います。

#### 【渡邊】

あとこれ、「保健学科の校舎を新しくしてほしい」というようなこと、ちょっとわれわれがどうのこうの言えることではないんですが、トイレの改修については順番がありまして、順次改善が進んでおりますのでごく近い将来改善がされると思います。あと「保健学科の横の体育館に冷水機」というようなことでありますが、これ前向きに検討させて頂きますが、例えば「農学部の改修工事はなんのために行われたのか。アスベスト除去したのに改修工事をするのはあまり計画性がない」というようなことがあるんですが、実はアスベストは国策によるものでありまして、これは順番待たずに一方的に上の方から予算措置がされるというものでありますし、改修工事というのは耐震改修なんです。耐震強度が弱いということで補強するための工事、あわせて改修をやっているということで、アスベスト工事とべつにやろうというのはあまり計画性がないというご意見ですが、実は生産的な面もありますのでこれはいたしかたないということでご理解頂きたいと思っています。以上です。

#### 【津田】

では全体でもうちょっと質問したいところがあれば。ありましたら、はい。

#### 【学生】

総合棟に印刷室とかないんですか？学生が使えるような。もしあったら便利だなと思って。はい、大量に。

#### 【関田】

そしたら各学部に学生が使える印刷機、たぶんあると思います。

【学生】

完全私的なんですけど、人文学部なんですけど、人文学部って基本的に教員の方が研究室とか総合教育研究棟にあって、結構総合教育研究棟で授業を行うことが多いので、ゼミとか行うときにレジメとかつくるときにわざわざ、あと他に学務に色々用事があるときにわざわざ人社棟に行くので、そこがなんとかならないかということを友達からも言われているので、そこをどう思いますか。

【齋藤】

私も大事な手紙があっちにあったりします。なんとかしてください。なにかうまい方法を考えられるといいですね。1個だけコピー機を置くとか。解決できるかどうか分かりませんが。私には出来ませんけど。

【学生】

分かりました、ありがとうございます。

【津田】

はい、では改善の方向で。

【学生】

喫煙家の方に怒られちゃうと思うんですけど喫煙所を設けたじゃないですか、今年か昨年。喫煙所で吸われている方は僕は気にしないんですけど、歩きタバコをしている人がすごい気になって。嫌煙家なので。歩きタバコを禁止するような感じにはできませんか。(場内の「禁止ですよ」の声に) 禁止ですけど普通に歩きタバコしている人はたくさん見受けられます。それを改善する策は？

【渡邉】

学内の構内は禁煙とこれはもうはっきりしていることなので、そのような学生がいることは承知しているが、そういうときには勇気を持って「これは禁煙だ」と、「歩きタバコは禁煙でしょ」と注意をしていく。これが一番効果的でしてね。これを見て見ぬふり、これが一番良くないことで、われわれも見るときに、ここは禁煙でしょ、すぐ消しなさいというような私も指導しています。みなさまが怖がらずに言えば学生もすぐ直るということで、ぜひそういう学生がいたら勇気を持って注意してあげてください。それが一番の近道かなと。一番、てっとり早いかなというふうに感じています。以上です。

【齋藤】

皆さんで言いましようということなんですけど、大変ですね。私も前電車のなかでタバコを吸っている高校生を見たんですよ。それで、「高校生だから吸うな」

とは言えず、「君、ここ禁煙だよ」と言ったんですけど。

【津田】

はい、よろしいでしょうか。他に。はいどうぞ。

【学生】

人文の学生です。さきほどカードキーについての話が合ったんですが、言えなくるとおっしゃっていましたけど。

【泉井】

学部のほうに相談してみてください。

【学生】

学部には？

【松井】

カードキーの件ですけども基本的には卒論執筆の学生さんに期限を限って貸与しています。今のところなんですが枚数に限りがあるので履修コースに1枚ということで貸与しています。ただ枚数に限りがありますが、まだ多少余裕があるみたいですね。どうしても、例えばわれわれとしては履修コースのなかでやりくりをして、連絡をとって使って欲しいと考えているんですけど、それがどうしてもやりくりできない、どうしてももう1枚欲しいということがありましたら、その理由を添えて人文学部の学務係に要望を出してください。必ず許可されると保証はできませんけども理由が妥当であればお貸しできると思います。

【学生】

はい、ありがとうございました。

【学生】

経済学部の学生です。学務についてちょっと感じたことなんですけど、まだ学務の人の生徒に対する態度がちょっと悪いかと感じるときがたまにありまして。例えばまだ学務が仕事をやっている時間であるはずにも関わらず、もう受け付けてくれないですとか、こちらが声をかけても無視されてしまうとか、あまつさえ友達の中には声をかけたら舌打ちをされたという話も聞いたことがありまして、そのへんをなんとかして頂くことはできないでしょうか。

【佐藤】

学務って具体的に言ってもらえませんか？ どの学部？

【学生】

経済学部です。

【佐藤】

経済学部で学務係ね。学務全体になるのかな。経済学部の学務係ね。

【学生】

あと他の友人にも聞いたことがあります。例えば工学部や教育学部ですとか、結構、舌打ちとは聞いていないんですけど、あまりいい態度をとってくれなかったとよく聞いています。

【山口】

経済学部はつい最近？ いや、人の入れ替わりがあるので。

【学生】

はい、つい最近だそうです。

【山口】

はい、分かりました。伝えておきます。

【泉井】（学生支援）

学務係の窓口対応ということで、私、学生支援課の泉井と申します。実は事務のなかでも窓口対応が大事だということで色んな研修をやったり、今みたいに指摘があると実は学部のほうにでかけていって、直接自分で見て、こういう意見があったから気をつけてくれということですぐ現場に足を運んでいるんですけど、引き続き今実際意見頂きましたので、私ども学務部のほうでも色んな勉強会とか、来週みんな集まることにしていますので、そのときに注意していかないといけないよと、声をかけさせて頂きます。申し訳ありません。

【佐藤】

今の一件でいいですか？ じゃばってすみません、学務部長の佐藤といいます。今みたいな質問の事務のほうで、全学的に色んなものについてご批判をどしどし出してください。ただ私、事務の立場で言いますと、必ずしも大学における事務というものが学生の皆さんに、はいはい、そうですねといういい面だけに対応を求めています。事務の対応が非常に悪いのももちろんあるかもしれませんが、本当に学生のことを思って学生にこうしてほしいということで厳しいことを言うかもしれません。そういった意味で必ずしも学生さんが言っているところを、すべてはいはい、と言っている事務が本当に良いかどうかというのは疑問です。

逆にそのことについては、あとであのときの事務に叱られたのが役に立ってるな、こう指導受けたのが役に立ってるなというふうに思えるような、そういう部分の事務も事務職員も抱えているのではないかと、こう思っておりますので、もしそんなことも今気づかなくても後で気づいたら幸せだなとこう思っております。

すみません。

【津田】

他に何かございませんでしょうか。はい、どうぞ。

【学生】

人文学部4年の学生です。ぜひ土曜日曜も図書館をもう少し長い時間開いてほしいと思います。平日だとむしろその学部棟などでも自習はできるのですが、土日が学部棟も閉まってしまうので、図書館でももう少し勉強させてほしいと思います。以上です。

【齋藤】

予算措置の問題になるのかな。

【生田】

一応土日ご存知のように開いてはおります。けれども職員も土日休まないといけないし、そのために働いている人をお願いして費用を払ってやっていくというようなこともあります。分かって頂きたいと思います。図書館で図書を利用するんじゃなくて、勉強するというようなことかも分かりませんが、上手に使う時間等を活用して、たぶん異常に短いなんてことではないのではないのかなと思うんですけどね。もう少し実態があれば教えて頂きたい。なんか卒論の勉強とかですか？

【学生】

はい、やはり17時で閉まってしまうというのが、土曜日曜ですとどっちかというと昼間というよりももっと長く勉強していたいというのがありますので、だから図書というよりはパソコンで勉強できるような環境がもう少し長ければと思いました。

【生田】

ちょっと具体的なイメージがわからないので。ネットワークを介してとか？

【学生】

いえ、単純にワードですとか。

【生田】

大学のパソコンをお使いになると。人文？

【学生】

はい。人文です。

【生田】

人文、お金ないんだけどもそういう貸し出しするようなパソコン用意したらどう？

【齋藤】

基本的には人文学部は研究スタイルなんですけどもわりと学問体系が個人でやるのが多いので、わりと合研なり研究室にこもってという方が多いと思うんですけど、そこの先生と相談して改善していったらいいと思います。

【津田】

よろしいでしょうか。他に何かありませんでしょうか。はい。

【下井】

法学部の下井です。たびたびすみません。5ページのその他のところでふたつめに、「学生に質問、欲求したいこと。」欲求したいことっていう日本語はないと思うんですけど要求したいことという意味だと理解して、個人的になってしまいますけど4点ぜひお願いしたいと思います。

まずひとつめ、大学生なんですから自分のことを生徒といわないでください。ふたつめ、資料室や図書館から本を盗んだりするのをやめてください。これはどこの学部でも非常に多いです。先ほど生田先生からパソコンの貸し出しというお話が出ましたが、これはもう絶対できません。

【生田】

持っていかれる？

【下井】

はい。3つめ、試験でカンニングをしないでください。これは非常に悩みです。こちらとしては。4つめ、2ちゃんねるとかブログで他人のプライバシーを暴くようなことを書くのは絶対にやめてください。これは犯罪行為に近いです。警察がその気になれば書き手は特定できます。そういうことをよく考えてほしいと思います。おそらくここに来ている方はそんなことされたいと思いますが、ちょっと先ほど個人的な意見という風にいいましたがおそらく大学教員共通の考えだと思いますのでぜひともその点を宜しくお願いします。

【津田】

はい何か先生の方から、職員の方から何か学生に望むことがありますでしょうか。はい。

【学生】

工学部4年の学生です。さっき質問すればよかったんですが、レポートのことでお伺いしたいことがあったんですけど、もう4年なのでどうでもいいといえばどうでもいいんですけど、私、レポートで問題でこういうのがあったんですけど、そこにはとにかくとある問題があって、「解け」と書いてあったんですね。だ

けどそれとまったく同じ問題が教科書とかにも出ていたんです。というわけで解答を持っていたわけです。というわけで私はその解答を丸写ししました。それは減点対象になるんでしょうか。それが、自分で一応考えてますけど、教科書を丸写しただけで解いてない扱いにされているかどうか気になってしまって。というのはその講義の単位が、取れたんですけど、自分が思ったよりもずいぶん低かったので、ひょっとしてと思って、その点答えて頂ければ助かります。

【齋藤】

それは推測がいっぱい入ってしまいます。それはその先生に聞くのが一番いいと思いますが、まず教科書ですぐ分かるものが載っているという時点で私はびっくりしますが、でもそれを出して、もしかして、さばる学生が丸写ししてきたら低く評価してやろう、採点も楽だし、と思ったかもしれませんし、あるいはそういう問題が載っていることを見つけれない学生がだめで、やっぱり教科書をすみずみまで見れば載っているという、それを評価したいと思う先生もいると思います。だから先生によって違うので、ここではそれはどうなのか言えないですね。先生に聞いてみてください。もしかしたらミスで出したのかもしれない。

【児玉】

同じ問題を出すというのは結局勉強してほしいからですね。つまりその問題を見て自分で考えてそれで分からなかったときに解答が教科書にあるわけだから、それを読んで自分でこうやって解くんだということを学んでください。丸写しするというのはそのプロセスを踏んで丸写しするのならいいですが、結局それはテストで出たときにもそのように解答できるようになっているかもしれない、それに対してどう採点するかはその先生、丸写しするのは減点するのか、それともそういうふうなプロセスがあると読み取れたらちゃんと付けるのかというのは、それはその先生に聞いてみないと分かりません。そういうテストを出すというのはそういうプロセスを期待して出したのかもしれないということです。問題が解けるようになる、つまりできるようになればいいんです。点数をとることが目的でなくて、身につけることが大事なんです。

【齋藤】

授業の関係で帰られる先生がいるので、個別の問題で経済学部先生に先にお答して頂きます。

【山口】

経済学部の学務委員長の山口です。私6限授業がありますので先にちょっと回答させていただきます。「シラバス記載の授業内容と実際の授業内容に違いがある。シラバスに沿って授業を行って欲しい。」それ経済学

部に限らず他学部でも出てくる問題だと思います。こういう事態が発生する原因として経済学部に関していうと、ひとつは学務情報システムで前年度の授業をそのままコピーして次年度のシラバスを書くことができたりするんですね。そうすると先生のなかには、面倒くさいから前の年の授業をそのまま貼り付けて翌年度のシラバスにすると。一方で、授業の内容は見直しているのでもうするとシラバスの内容と授業の内容にミスマッチが出てくるということは、まずひとつの原因だろうと。

もうひとつの理由は他学部でもやっているところは結構あるのかもしれませんが経済学部の場合はお互い指摘し合ってよくしていこうという発想があまりない学部ですので、シラバスについての相互レビューをしていないんですね。だから例えば他の先生のシラバスを見て、ここはこうしたらいいのではないかと、本来ならそういうレビューというのをしたうえでシラバスを見直ししていくという作業が必要なんですけど、それを今していないと。経済学部に関しては、私、会計学なんですけど、会計学領域では会計学の先生が集まってそれぞれの授業でどの範囲を教えるかという、一応すり合わせをしているんですけど、多分それ以外の分野はまったくやっていないので、そういう点からもこういうギャップがでてくるだろうと思います。

もし実際こういった問題のある講義があるということであれば学務係ないし、学務委員の先生に、具体的にどの科目がどうだということを言って頂きたいと。そうでないとなかなか現状では教育レベルの問題が把握できていない状況ですので、ぜひ勇気を持って学務係か、学務委員の先生に言って頂ければと思います。以上です。

#### 【津田】

学部固有の問題につきましては学部のほうにお願いして、回答を頂くということにしています。他に何かご質問、全体についてですね。今まで話し合いが行われた内容について、何かございませんでしょうか。なんでもいいです。はい、どうぞ。

#### 【学生】

理学部の学生です。さきほど遅刻する学生に対する対応についてあったんですが、先生の優しさ、聞きたいんじゃないかという優しさもあると思うんですが、真面目に遅刻しないで来た学生は聴いているわけで、遅刻してきた学生によって扉の開け閉めですとか、先生がたまに中断してその学生に資料を配布したりとか、レポートを返却したりとか、それは真面目にやっている学生にとって非常に迷惑な行為で、でもそれを学生どうして注意することはできないので、先生から10分経過したら入らないでほしいとか、そういう提案をしてほしいというか、対策をしてほしいと思います。真

面目に授業に出ている学生に対する配慮としてもお願いしたいと思います。

#### 【齋藤】

私個人ではなくて、そういうのを各先生方に流すようにしてほしいということですか？そういう意見があったら流します。私のときにできるかといえば、大変ではありますが、来るなどと言っても来ますからね。権利としてね。

#### 【学生】

私、編入生で前は違う大学にいたんですけども、10分から15分たったなら、その教室を施錠して入らないようにするというのをやっていたんですね。そうでもしないと学生は30分でも40分でも遅れて来ると思うので。できないというよりはそういうのを前向きに検討してほしいと思います。

#### 【齋藤】

検討はします。それが実行できるかどうかはお約束できないんですけど。

#### 【津田】

はい、よろしいでしょうか。他に。はい、どうぞ。

#### 【学生】

さっきの議論の続きなんですけど、さきほどの人の。僕ははっきり言って出席自体をあまり評価していないんですね。なぜなら大学に来て学習するのは自分が理解するためであり、先生が教えたことを理解することではないんです。僕、理学部の物理学科なんですけど、物理学科の本ってはっきりいえば図書館なりアマゾンなり、アマゾンでウェブのショッピングサイトですけど、そこで本を買って読んでしまえば理解できて、最後にテストを受けてその単位が取ればそれで単位取得だと思っているんです。出席をしたからといってその生徒が理解しているかという、理解していない人もいれば理解している人もいますよね。それで遅刻したからといってしばられると逆に困るんですけども。

#### 【齋藤】

さきほどの方に今のを聞いて頂いて、色んな意見があるのを分かって頂きたいのと、そちらに対しては正直言えば私もあなたと同じなんですけど、じゃあ今の方たちが授業に出ないで、その分本を読んで勉強してくださるかという、そうでもないところはあります。実は私は大学院のときだと思いますが、先生に、「君、授業なんかでなくて勉強しなさい」と言われたんですよ。そういう時代だったんですね。でも今じゃあ授業出ないで本を読んでいるかという、ゲームをやると

かそういうことになっちゃうので、そこはやっぱり出席を厳しくするのもおそらく学生に対するわれわれの教育だろうと思って色々なことをやっています。そういうお答になるとは思いますがどうでしょうか。

【学生】

教育に対して時間をとられるのは教授としてどう考えていますか。

【齋藤】

私は例えば英語の本を読んでいて、自分で分かったつもりになって読んでいるんだけど、学生が訳して間違えたときに自分の間違いに気づくこともあります。なので、教育とは全然自分のためにならないのではなくて双方向的なものなので研究にも役立つと思います。

それから授業に出ないで自分で勉強するという点についてなんですが、確かに本を読んで黒板に書いてあるのと同じことが書いてあるとしても、私は汚い字で書いてあるとそれが視覚的に残ったりですとか、言い間違いをして、ああ、先生ばかだな、あそこで言い間違えたなと記憶に役立つことがあります。なので授業はまったく無駄ではないと思います。個人的なことですけど。

【津田】

今の補足しますと昔から出版業ができた以降から言われてきて、授業よりも教科書だけ見るのを配布すれば速いじゃないかという話が昔からあるんですね。でもやはり何が大学の授業で必要かというところの生の人が喋っている。それを通して学ぶものが多いということで、今、学校制度ちゃんと成り立ってきているんですよ。ですからそのへんのところを理解して、自分で読んでればそれだけですんじゃないんですね。自分の殻にこもってしか理解できないですけど、経験を積んだ先生方を通して、ああそうかと思うことが多いと思うんですね。ですからそういうことも理解して頂きたいと思います。すみません、補足しちゃいました。

他に何かありますか。はい、どうぞ。

【学生】

保健学科の学生です。話は変わるんですけど学食について1個質問があって。僕はイスラム教なんですけど、時々料理について聞いたりすると、豚肉が食べられないので、分からないと言われることがあるんですが、もしそれをできれば原材料を表示してくれたりすると嬉しいんですけど。お願いできないですか。

【齋藤】

今留学生の方の環境を整えるということに力を入れていますので、それは伝えたほうがいいですね。生協にこういう意見が出たというのは伝えておきます。

【津田】

他に何かありませんでしょうか。学習環境に関することとか。皆さん方が授業のなかだけじゃなくて、学外でも学習をしているとみなされている状況なんですけど、そういうことについて何かありません？ あるいは全体についてとか。他に何かご意見とか。大体同じような方が質問されるケースが多いんですけど、今日は非常に皆さんご協力して頂いていて、かなり活発に色んな議論が出てますけど、まだ私は発言していないというのがあれば。質問して頂ければ。はい、どうぞ。

【学生】

理学部4年の学生なんですが、旭町近くの学生寮に住んでいて休みの日に旭町の図書館へ行ったほうが近いので、そちらに行って学習をしようというふうに行くんですけど、こっちの五十嵐地区の図書館だと学生証を通せば中に入れるんですが、旭町地区の図書館だと学生証を通して通れなくて、一度学生証を提示してその通るカードを借りて、通ったあとにまた返却するという手続きがあるんですけど、それを学生証を通すだけで医学部以外の学生でも通れるようにして頂きたいんですけど、そういうことは技術的に可能でしょうか。

【泉井】

可能かどうかを含めて図書館のほうへ確認します。

【津田】

よろしいですか？ 他に。一応予定としては6時半までを予定としていますが。もう皆さん出尽くしたという感じでしたらこれで閉会するという方向でいきたいと思いますが。はい。

【学生】

もうひとつ質問、質問というか注意してほしいことがあるんですが、よく旭町のほうに住んでいて、よく駅まで行ったり来たりするんですけどそのとき歩いているとき、すごい坂道とか下り道だったときに自転車がすごい危険で、何度もぶつけられてケガしそうになったことがあって、そういうのってすごい危ない。僕だからまだいいんですけど、年寄りとか歩いているとき、間とかを通るときすごく危険に通っていくので、そういうのをもうちょっと注意してくれると嬉しいなと思うんですけど。すみません、お願いします。

【齋藤】

それは大学で注意することかどうかちょっと分からないんですけど、そういう事例を流せばいいですかね。ここにいる人だけに怖い話をするんですけど、昔、自転車ですごい勢いで降りてきた方がいて、学生のほうが歩いていたんですが、その学生ぶつけられて、自転車



に乗っていた方が亡くなったということが本当にありました。だからものすごく危険だということは周知したいとは思っています。

【津田】

はい、他にになにか。もうよろしいでしょうか。他にありません？じゃあ、こちらの方から。

【学生】

工学部3年の学生です。僕は編入生なんですけど1学期の履修を登録するときにまだ自分が何の単位を振り替えてもらったのかというのが決まっていなかったんですよ。この場合は履修計画が自分としては立てにくくてすごく苦労したんですけど、実際登録したあとも事前に登録するための紙に、これを申請しましたというのを出して、それが通ると信じて履修計画をやったんですけど、でも実はそれは上の人に通らなかったというのがあって、実際に重複してしまったやつとか認定が受けられなかったというのがあって、実際に単位が取れたのは計画よりも少なくって、今すごく困っているんですけど、どうでしょうか。

【齋藤】

さっきの工学部のところを読んでいてそれを思ったんですけども、工学部だけに限らないけどそれぞれ編入についての単位認定は早くしたほうがいいと思う。

【児玉】

3年生のときの最初のガイダンスは出ましたでしょうか。普通はこういうことは起こらなくて、他の学科では起こってないと思います。なぜならこういう単位が認定されますよというのをそのガイダンスのときに学生さんに表にして配って説明しますから、普通は起こらないんです。それでそれをやった後に教授会でそれを認めるというのはありますけど、そこでは何も変わりませんので、その方針で行くと。だからもしそうであれば機能材料工学科の担当の先生がそれをしなかったということになると思いますので、それについては調査しますので。はい。

【齋藤】

単位認定ってうちも4月にやってると思うんですけど、前にできないんじゃないですかね。

【津田】

よろしいでしょうか。ではもう一方。はい。お願いします。

【学生】

さきほど怖い話で思い出したんですけど、4月に新入学生が入ったときにサークル等で飲み会をすると

うんですが、そのときに僕の知り合いでそのまま放置されて道路をふらふら歩いていたとか駅前に放置されたとかそういうのがあったので、規制をしっかりしてください。

【齋藤】

それは多分4月に色々話していますよね。掲示しますよね、新入生は飲まないようにって。それって社会常識だと思うんですけど。機会があればしていきたいですけど、「放置するな」ってのは書きにくいですね。

【学生】

すみません、あともう1点なんですけど、その他のところの旭町周辺のアパートのところで旭町周辺に学生寮、六花寮があるので、良ければ皆さん入ってください。寮費1万円で水道光熱費込みなので、安いと思うので入ってください。以上です。

【津田】

よろしいですか、じゃあ。

【学生】

先ほどの単位、編入生の単位認定のことなんですけど、今年も私も単位認定をしてもらったんですけど、それが入学式の前日に「あなたの単位はこのような感じで認定するのでどうですか」というような紙を渡されたんですけど、それを入学式の前日に渡されたとしてもそのシラバスは配られて、果たして自分はこの認定内容で卒業できるのかどうかというのは1日じゃ判断できなくて、結局1限から5限までフルで授業を受けないと卒業できないとか、そういう状況になっているので、11月中にシラバスは提出しているはずなので3月とか2月の時点でなんとか単位認定の話をしてほしいと思います。

【齋藤】

これについて、各学部で、こういう意見があったとぜひご検討ください。つまり4月の段階で編入の単位認定遅いんじゃないかという体験があったということです。この60単位程度というのも同じなんですよ。うちの学部では実態はそうじゃないんですけど、4年間でとる単位を要するに2分の1にしています。1、2年生でとるのはそこまでだろうということですし。実態は1、2年生でいっぱい取っているんですけど法令上としてはそうになっています。

【下井】

無理じゃないですかね。だって前の大学3月卒業しないと単位はわかりませんから。成績分りませんから。

【学生】

取得見込みでは？

【下井】

いや、それでは認定できないでしょう。落ちるかもしれないので。

卒業して1年たっている人ならいいですけど、3月に卒業して4月にこちらに編入される方はその前の大学を卒業して正式に成績が出ない限りこっちは認定できないです。見込みで認定は...

【児玉】

そっちのカリキュラムと工学部のと比べてひとつひとつ合わせていかないといけないので、結構その作業の手間とかが、単位が出てから科目の対応を見てから認定していく。

【下井】

私が今まで何度もやってきましたが、そういうことがあるのでそこはご理解頂ければと思いますが。

【齋藤】

ただ4月では大変だったというので見込みでこういう科目を聴講して、それは何になるかというくらいはできるということです。3月の早めにはできると。卒業してからやるとしたら入学式の直前じゃなくて3月の末くらいには出るというのができるということでしょうか。

【児玉】

あとは工学部がかなり学科で編入学生にはこれとこれとこれとかなり取りなさいと、そしてこうしなさいという指導をかなり細かくやりますので、そういうことは編入生が迷うということはないと思います。ただ人文系の科目というのは自由にとるので、そこらへんはわれわれコントロールできない。専門科目についてはこれを取りなさいという、ほぼ決まった科目を指導しているというのは工学部ではやっています。

【津田】

あと他に何かよろしいでしょうか。先生方の方から何かコメント。

【生田】

最後、濱口先生が挨拶すると思うので。今日2時間近く色々意見を聞いて大変われわれにとって有意義なものがたくさん出てきて、そのことには感謝するんですけど、まあ持ち方なんですけど、私達が答えなければだめな内容のものと、むしろあるものによっては皆さんと一緒に、質問は出すんですけどこれについてはこういうふうにするともうちょっとうまくなるな

んていうのをみんなでこう、NHKに「ご近所の知恵」なんとかというのがあるじゃないですか。どこかに正解というのがあるわけじゃなくてそういうものをみんなでやっていくと本当はいいのかもしれないね。質問してというような形もちろん大事なんですけど、少し私達も考えますし、皆さんも自分の力でどう考えたらどういう解が出てくるのかというようなことを、大事なのかなと思いながら聞きました。どうもありがとう。

【津田】

それでは閉会の挨拶にいつてよろしいでしょうか？  
閉会の挨拶を宜しくお願いします。

【濱口】

今ので充分だと思うんですが、閉会のあいさつということで一言だけお話ししたいと思います。今日色々聞かせて頂いていて思うんです。何を思うかというと、もう少し学生さんたち背伸びしてくれないかなと。それで、もう少し背伸びして、われわれは少し大人なんだよと、ちゃんと責任を踏まえて行動する大人なんだよという、もちろんその実態はもう40年くらい前に学生をやっていた私は40年たってもまだ大人になりきれない自分を感じていますからよく分かるんですけど、少し常に毎日少しずつ背伸びしてるとまだ皆さん方なら背は伸びるんだらうというふうに思います。そういう意味ではもう少し背伸びした意見が出てくると、もっと楽しいかなというのが率直な感想ですし、静かになっちゃうとおもしろくないんですけど。

それから毎年、実はこのこういう会に出て6、7年くらい少なくとも出ていて、毎年出てくる話とそれから今年新しい話と、昔はあったけどなくなったなっていう話が色々あります。それでわれわれとしてはやはりこういうことをやって課題として出てきたことはできるだけ来年度は出てこないように努力したい。でもさっき齋藤先生がおっしゃったように、だんだんいくことですから来年度に出てこないようにというのは無理かも知れませんが、数年後には出てこないように努力したいと思います。それで皆さん方もわれわれが本気でそういうふうにいるんだということを信じてまた来年もぜひ出てきて色んなことをわれわれに言っただけいたらありがたいなと。そのとき今年より少しだけ背伸びして言って頂ければもっとありがたいと思います。

今日は大変長い間色々、例年より活発に現場で話していただけたように思いますので大変面白く聞かせて頂きました。どうもありがとうございました。

【津田】

どうもご協力ありがとうございました。これで終わりとさせていただきます。また来年宜しくお願いします。